

## ビジョン2050の取組項目との関連事業数一覧（第1次実施計画、第2次実施計画）

全事業数→ 52 25

大区分	中区分	小区分	細目	1次	2次
保全	地球規模の保全活動に貢献	ア 動物園で健全な個体群を維持	生息域外保全	9	8
			繁殖技術の確立	9	7
			繁殖計画の立案・推進	8	6
		イ 飼育動物の生息地保全	生息地保全による野生下個体群維持への貢献	0	1
			生息地保全活動への参加と普及啓発・環境教育活動	6	5
			寄附や募金の促進	8	5
	地域の環境保全活動を活性化する拠点に	ア 円山動物園周辺の生物多様性保全	円山エリアの生態系保全	6	4
			ニホンザリガニ等の市民協働の保全拠点	4	3
			園内体験イベントの充実と園外活動促進	3	3
		イ 北海道・札幌市の生物多様性保全	森林・河川・草原・湿地等の環境保全活動促進	6	5
			地域レッドリスト調査研究と種の保全活動	6	5
			外来種駆除等生態系かく乱防止活動	5	3
	地球環境の持続可能性に配慮		害獣対策・鳥獣保護管理の普及啓発	3	4
			無駄なエネルギー削減・再生可能エネルギーの導入と普及啓発	4	2
			ごみの再資源化・化学物質（プラ製品等）の排出削減	3	4
		園内利用製品・販売商品（地産地消・環境配慮認証商品・フェアトレード等）の環境配慮強化	4	5	
教育	世界中の野生動物のことを発信	ア 地球からのメッセージ	生物多様性の重要性	12	7
			全ての動物種の生息環境保全への貢献	13	8
			日常生活の生息環境への負荷、何ができるか伝える	14	7
			自然の大切さ・動物の魅力を伝える手段を園外で整備	10	6
		イ 野生へ誘（いざな）う扉	園内空間を生息環境に近づける	4	3
			自然と市民をつなぐ場（観察方法、エコツアー紹介等）	4	4
			他団体・機関の保全活動と結びつける	7	5
			野生動物と愛玩動物との違い、関係・距離感、生命観、野外での接し方	10	9
	総合的なフィールドミュージアムとして地域の教育拠点に	ア "生きている"を伝える博物館	生の姿・声・匂いから生命を感じ、豊かな感性を育む	7	6
			科学的最新情報を伝え、地域教育をサポート	11	6
			形態や行動の多様性を実感できるよう工夫	6	3
			情操教育への効果発揮	8	5
		イ 多様なアプローチ	動物を慈しむ心、他者との関係性を想像する力を育む	5	2
			参加型プログラムを充実し、自然環境を体感	12	6
			園外での自然観察会等で地域の生態系普及啓発	2	2
		学校教育用プログラム開発	6	4	
		園内で市民フォーラム、園外シンポジウムに職員講師派遣	7	7	
		小中学校を中心に「動物園の取組」「動物との適切な距離感」「野生個体への配慮」を啓	5	5	
調査・研究	動物のこと・環境のことを探求する	ア 全ての事柄について探求する	生理生態の他、保全活動・園の効率的経営・来園者動態・運営全般の調査研究	13	8
			外部機関への共同研究、外部からの研究協力の体制整備	12	8
			職員の主体的な調査研究企画立案実行を推奨。新たな人材育成	5	4
		イ 調査・研究の技術を磨く	職員が研究方法等を学べる体制（外部講師招聘、園外研修・技能訓練）	4	4
	動物等の情報の記録、保存・管理。定期的な研究発表		10	6	
	学会・論文発表。市民向け報告書作成・市民フォーラム開催		8	8	

## ビジョン2050の取組項目との関連事業数一覧（第1次実施計画、第2次実施計画）

全事業数→ 52 25

大区分	中区分	小区分	細目	1次	2次		
リ・クリエーション	知的好奇心を満たす心地よい空間を創造する	ア 市民に身近な動物園	来園者の楽しい思い出づくりのためのおもてなし	7	4		
			バリアフリー	2	2		
			動物園までのアクセス向上(渋滞緩和)	1	2		
		イ 良質な憩いの空間を提供	写生や写真撮影、食事・くつろぎ、多種多様な利用ができる快適な空間づくり	5	3		
			海外来園者への案内・解説の工夫改善	3	1		
			売店食堂の統一感のある園内整備	2	1		
			植栽・園路を動物の生息環境を想起する空間づくり	1	1		
		ウ 動物園を楽しむという文化を根付かせる	楽しんでもらう展示や解説、体験型イベント・ツアーガイド	7	6		
			最新情報から豆知識までより一層動物を好きになってもらえる情報発信	7	6		
			専門的知識を求めている来園者の満足	11	7		
		動物福祉	全ての命に最善の暮らしを	ア 安全で健康な毎日を	本来の食性にあった栄養面配慮の飼料提供	6	5
					安全安心に暮らせる動物舎整備	8	5
動物移動時や繁殖同居に万全の準備	7				4		
大規模災害への対策	4				2		
イ 自然で充実した生活を	動物本来の行動を発現できる飼育環境整備			6	3		
	動物の豊かな行動を引き出し生理的・行動的・社会的欲求を満たす			6	4		
ウ 質の高い獣医療の提供	ハズバソダリトレーニングによる治療等における動物への負担軽減			7	4		
	動物診療技術向上			7	4		
	知識・技術習得のため各種学会参加・学術発表			6	3		
エ よりよい飼育体制を目指して	科学的な動物福祉基準整備・動物福祉評価			5	1		
	職員間で共通認識を持ちながら動物園をあげて飼育の質向上			3	1		
	飼育面積に合わせた飼育動物種・個体数検討			3	2		
	飼育展示施設の改善・改修	6	3				
連携	力を合わせて共に未来へ	ア 市民や民間団体と	15	10			
		イ 民間企業と	8	8			
		ウ 学校と	5	3			
		エ 社会教育施設と	3	3			
		オ 研究機関と	18	14			
		カ 国や北海道と	4	6			
		キ 道内の動物園水族館と	4	5			
		ク 国内の動物園水族館と	2	4			
		ケ 海外の動物園水族館、大学や研究機関	2	4			